

金融市場NOW

# 銀行の国債保有額減少が顕著に

## 銀行が保有する国債が減少。今後の金利動向への影響も

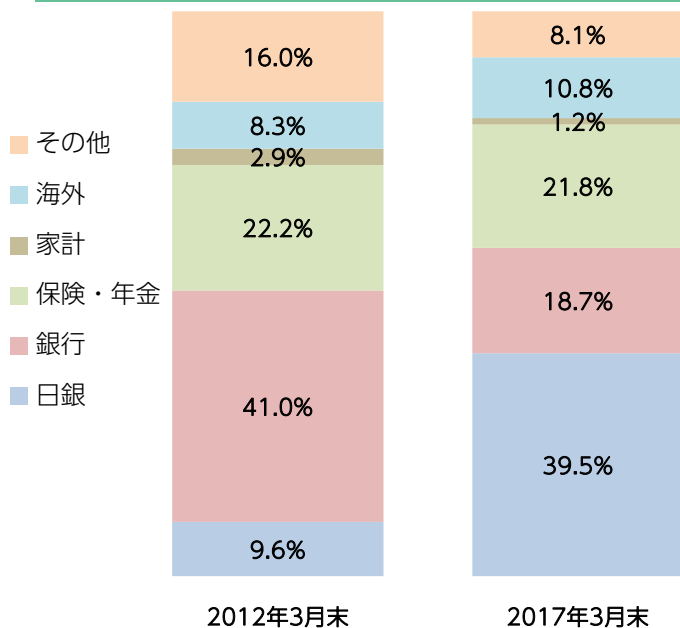
- 銀行の保有する国債残高が比較可能な2005年以降で最低を更新。
- 銀行が残高を減らす中、海外投資家による国債の保有額が増加している。
- 日銀、海外投資家による国債の保有額増加、銀行の国債保有額減少は、欧米の金利が上昇傾向にある中、今後の国内金利の動向に影響を及ぼすことも想定される。

日銀が6月27日に発表した資金循環統計によると、銀行が保有する国債残高の減少傾向が顕著となっています。銀行全体の国債の保有比率は、ピーク時頃の2012年3月末の約40%から2017年3月末時点には18.7%へと低下しています。また、異次元緩和政策導入以降国債保有を増やした日銀の比率は2012年3月末の9.6%から、39.5%（2017年3月末）まで上昇しています。海外投資家もリーマン・ショック以降保有比率を増加させています（図表1）。

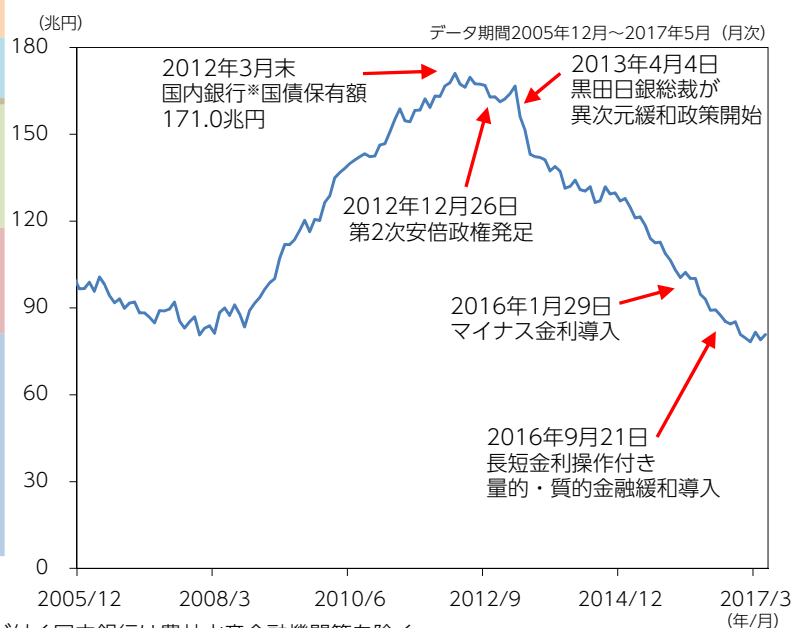
国内銀行\*の月次の国債保有額は異次元緩和政策導入後減少し、2012年3月末に171.0兆円であった保有額は、2017年5月末時点で80.8兆円まで減っています（図表2）。保有国債の満期償還後にマイナス利回りの国債を新たに購入しにくいことや、金融庁が銀行が保有する債券の金利変動リスクに備えるための規制を見直し、過剰な金利リスクを取る運用から融資や企業再生支援などの事業を促す姿勢を示していることが保有残高減少の背景にあるようです。

長短金利操作付き量的・質的金融緩和が導入される中、銀行保有の国債の日銀の買い取りにより市場での流通量が減少し、流動性が低下しています。欧米では金融緩和の縮小が意識され金利が上昇傾向となっています。これまで保有を増やして来た海外投資家の動向によっては金利が大きく変動することも想定されます。

図表1：投資主体別国債保有比率



図表2：国内銀行\*の国債保有残高



○文章、グラフ上の銀行は農林水産金融機関等を含む。ただし\*が付く国内銀行は農林水産金融機関等を除く。

出所：図表1、図表2は日銀統計のデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会